

人間ドック

白川西 湧 勝



昨年、年も押し詰まつた二十二日から一週間、布引の市立病院の人間ドックにはいつた。別にとりたてて軀に異状を感じたわけではなかつたが、私もすでに五十の半ば、一度精密検査を受けてみようと言うのが、かねてからの宿願であつた。それに、毎年のことながら、歳末の騒々しさは苦が手である。それからズラかつて、病院の個室で、一人ひつそり本でも読んでやろうと言う狙いもあつた。

生来頑健のおかげで、私はまだ入院生活の経験がない。病院と言うところも、看護婦さんたちに講演に行つたきりで、とんと不案内な世界であつた。人は未知の世界に不安と恐怖を抱く。病室の廊下を通つただけでも、あのうす暗いじめじめとした陰湿な感じがやりきれない。思いきつてドック入りを決心してみたものの、もし歳末という絶好のチャンスでなかつたら、又ぞろのびのびにな

つっていたであろう。

一週間の精密検査の結果、さいわいに何の異状もなかった。眼科の検診で眼鏡の度のまちがつていたことが発見されたのと、皮膚科で、喉に出来ていた米粒ほどのイボを焼去してもらつたくらいで、怖わ怖わ入院したもの、まことにあつけない結果であった。

怖わ怖わと言えば、じつのところ、一つだけ、気がかりなことがあつた。血圧の問題である。別に異状の自覚はなかつたが、わが家は高血圧の家系である。現に父母ともに卒中で倒れている。そして私も亦四年ほど前に、医者からその注意を受けてガクンと来た男である。その時は、肩凝りのあげく、しぶしぶ近所の医者の門をくぐつたのだが、百六十と聞かされて、愕然とした。中一日置いて、今度は専門医の診察を受けたところ、百八十と言う。その日、医者からの帰途、私はふところのタバコを川に抛つて、絶対禁煙を誓つたものである。さつそく血圧測定器を買ひ込んで素人測定をしたり、高血圧療法と称する書物を貪り読んだり……。いまにも父母の轍を踏むかと、そのところ当分は戦々兢々たるものであつたが、そんな養生は一ト月とはつづかなかつた。

わが病気を自覚して、周囲を見廻してみると、

同病の友人がいくらでもいた。その先輩たちから、気にしないのが何よりの療法だと聞かされて、禁煙もいつかものモクアミになつた。買ひ込んだ血圧測定器も押し入れに抛り込んだままで、あれからざつと三年。——平然と構えて來たとは言うものの、ありようは、臭いものにふたをした自己範晦の明け暮れだつたと言つていい。

ところが、その血圧も、今度の精密な測定の結果では、わずか百三十台である。少くとも百六七十は宣告されるものと觀念していた私には、信じられぬ低さであつた。

「その器械は故障しているんぢやありませんか？」

うつかりそんな暴言を吐いてしまつた。

「病院では、こわれた器械など使いませんわ」看護婦さんは苦笑しながらも、翌日は別の器械で測つてくれたが、やはり信じ難い低さであつた。

なぜ血圧が下がつていたか？——思ひあたることが、私には二つしかない。一つは、二年ばかり前からはじめたゴルフである。そのため、中年肥りの軀が、二貫目近く軽くなつてゐる。たぶん、それが最大の原因だろうと主治医の博士も言われる。もう一つは、近年、茶を喫む癖がついてしまつたことである。抹茶の効はものの本にも書いてあるが、私は机上に抹茶の道具を置いて、日に幾度もたてて喫んでゐる。それが効を奏したと言うのであるうか。

ともあれ、そんなことで、芽出度く退院したわけだが帰宅した途端、茶の間の炬燵で、待ちかまえていたように、ワッと子供たちの歎声が上がつた。

「お父さん、もう誰も同情しないわよ」

この数年、家人から高血圧を理由に病人なみの待遇を受けて、縦の物を横にもしない横着を決め込んでいた私だが、もう今日限り、その待遇を停止すると言う宣告である。

皮肉である。健康体のお墨付きを貰つたおかげで、とんだ不自由なことになつてしまつた。

神戸のこと 手当り次第

淀川長治 聖
え・中・西

「もう七時まえでつせ、早ようせんと、まに合いまへんでえ」私はとつくに表に出ていたが姉ふたりが、あのリボンこのリボン、あのぞうり、このぞうりで戦争。やつと家じゅう揃つて聚楽館の二階正面にせいぞろいしたときには、もう舞台カーテンが上るというどたんば。大正十五年その昭和になるまえの十月末のあの晩がふと思ひ出された。アメリカのデニショウン舞踊団。

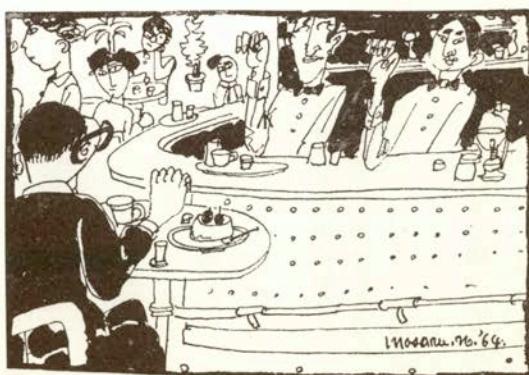
ことしの春は、「京劇」から幕があがつた。三晩つづけて楽しんで、あの古典にふと大正の香りを嗅いで、それで聚楽館を思い出させた。こんどの京劇は第四回の若手ぞろいで、他界した梅蘭芳の静かな美しさと品の良さはとても求め得られはしなかつたが、それにしても美しかつた。能も文楽も歌舞伎も浪曲もがここに源を発したかの感じ。若手ぞろいのため私の大好きな八年前のユワン・シーハイ（袁世海）が来ていないのが残

念だつたが、それにして北の美術品をそのまま日本で見られるありがたさにうつとりした。

想えば大正十一年のアンナ・パヴロアに感激したのも神戸の聚楽館。日本の入口の神戸は日本で最初に海外の芸術家を迎えた、當時それをいちはやく見物して育つた私は幸せだった。

つい最近、大阪の若い人が「気がいらいらする」と神戸にいきまんねん、するとなんやスウーと落ちつきます」またもう一人が「シャツやネクタイ、僕のこれ、みんな神戸で買うことにしてます」。これをべんちゃらと一瞬思ったが、二人がいかにもほんとうに神戸をほめている様子が見えて、こんなことは私には久しぶり。

東京で神戸産の人々に逢えば「もう、いやらしなつても、あのけつたいな元町。トーア・ロードの気分？」あほらしい、もうそんなもん、ありま



つかいな」これが挨拶がわり。

それが東京の人が最近神戸に行つてきて「やつぱりいいわねえ、元町、なんだか神戸って感じねえ、あたし好きだつたわ。」

最近の神戸、最近の神戸……このサイキンが私に興味を湧かす。神戸が、どうやら、神戸の良さをとり戻して。イキに、個性をとりもどして。そういうなりつつある……らしい。

ところでこの「神戸のこと手当り次第」も、十日エビスのきつ、きよアメそのままに、のばしにのばし、ひっぱりにひっぱり、みなさまに大変御迷惑を相かけてきましたが、この十九回をもちまして、どうやらトマトも投げつけられず退場いたすこと……そう嬉しそうなお顔をなさらないで終りまで聞いて頂きたい……そうなつたのであります、ウラをかえして（へへッ）次号から形を変えて再登場。（がっくりきましたか）その節はどうぞよろしく。

また四月半ばには神戸に行つて、これは須磨寺にある先祖代々のお墓にもおまいりしてという用件もありまして、そんなこんなで、神戸でなんとなく「神戸っ子」の読者さんたちとヒザつき合わせて「お話の会」でも持てたならと、そんな楽しさが持てたならと思いながら、私のことで、あるいはこのプランもう少し先きの初夏になつちまうかも知れませんが。必ずそのころまでにはと言う私ひとりのこれはひそかなお楽しみ。

実は去る十二月初め大阪に用件あり、飛んで朝だちの飛んで夕べ帰りのツバメ旅行で、目と鼻さきの我が神戸に立ちよれなくムシヨウにそれで神

戸が恋しくなつて。その大阪で、梅田ちかくの喫茶店で、これは三十分の時間のエアポケットみたいたものが出来、ひとりでその喫茶店に、ほんやりと、コーヒーを注文し、伊丹の姉にも電話しようか、いやいや電話すると今夜は帰れなくなる。いろいろそんなことを考えて、ふと目の前に持つてきたコーヒーハー、それにはプリンがついていた。自分はいつたいプリンを注文したのであろうか。

プリンを注文しようかなアとはたしかに思つた：けれども、注文はしなかつた。それなのに持つてきた、これはおかしい。そこで「あの、プリンは、たしか注文しませんでしたが……」すると行儀よく一礼して「ハイ、これはオココロザシです」。その表情も変えないで大まじめな顔で若い女給仕さんの「オココロザシ」の一言で私は一瞬とまどいした。それでエッと顔を上げると「あのバーテンさんが、えらいアンタのファンなんですね」と言う。バーテン？ 私はきょろりとそちらを見た。

するとバーテンダアから三人の若いコック帽の白服サンがニコニコ顔で手をニギニギのかつこうで私を見て笑つていた。ハハアンそうですか……とはわかつたものの「オココロザシ」が面白くて私はそのクロミツのベッタリのサクランボウの三個ものつかつた特別製らしきそのプリン。それを頂くかつこうをしてその皿を両手に持ち上げて、そして……頂いた……もののオココロザシを頂いているあいだじゅう、尺八を持ち胸に小箱をぶらさげたこむそみみたいな気になつて、どうお礼を言つていいのか、これは生れて初めて経験の見知らぬ喫茶店のタダグイ。

（映画評論家）

孫

阪 本 勝

私は祖父といふものを知らない。私が生まれたときには、父方の祖父も母方の祖父も、すでにこの世を去っていた。しかし祖母は、父方も母方も、私の少年時代まで健在であった。だから祖母というものの愛情についてはかなりこまやかな点まで記憶している。

ところでいま私にはふたりの孫がある。孫の立場からいふと、ふたりとも祖父といふのを知っているわけで、この点祖父といふのを知らない私にくらべ、ふたりの孫はしあわせだと思う。そういう悲しい願いがいつも私の心のなかにあつた。

孫のひとりはことし十六才で高校一年生である。名は泉といふ。私の公職追放中、有馬温泉に浪居していたころに生れた子といふ意味と、阪本家中興の祖、阪本泉之守といふ名にちなんで、私が名づけたのである。

そのつぎに生れてきた女の子は、当年六才でこの春小学校に入学する。阪本小凧（こなぎ）といふ。これまた祖父たる私がつけた名前で、これについてはいさか話がある。

一九五七年、私はアメリカ政府の招待で、二ヶ月間全米を旅行した。出発のころ、長男彩児の妻

がにんしん中だつたので、アメリカ旅行中に誕生するだろうと思い、出発前にあらかじめ名前をつけておいた。

「もし男の子が生れたら、鷹丸（たかまる）と名づけよ。もし女の子なら小凧と名づけよ」と言ひのこして私は旅立つた。

忘れもしない、シカゴのホテルに泊つていたとき、「小凧誕生す。母子とも無事」という意味の電報がきた。私はすぐ返電をうつた。

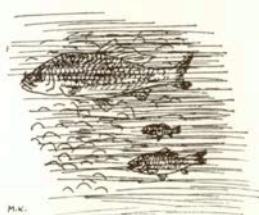
「小凧誕生をはるかによろこぶ」

その孫がことし小学校に入学する。

月日の過ぎゆくことはやさ、はかなさが身にしみる。そこでつくづく思うことには、私の五代の生命の流れの、ちょうどまんなかにいることになる。祖母、父母を過去にいただき、子と孫をわがあとにかかる生命の川のはかない浅瀬をいま渡りつつあるわけだ。

ところでこのふたりの孫に対する愛情は、孫を持つてみなければわからないよく世間でいうように、形容のできないとしさ、かわゆさが心にたちこめて、だらしないかぎりである。

せんだって、小凧がうちにやつてきて一泊し



喜益松ツカ

朝おばあちゃんがさきに起きてきたあと、なんべん寝室をのぞきにいったことか。暗い寝室からひとりで出てこれるかしらんと心配そうな顔をして居間にほんやりしていると、眼をこすりこすり、まぼろしの人形のようにふわっと現われた。私はその髪を撫で、ほっぺたにキスし、膝の上にだっこして、しばらくだまっていた。すると冬眠からさめた魚のように、まもなく動き出した。ふわふわとおさげの髪を揺るがせながら六才の稚魚は部屋のなかを遊泳あそばした。

もう孫は生れないだろう。すると小凧は五代にわたる生命の川の川にもにあたることになる。その川しもに泳ぐ稚魚を見ながら、人生の中老を送るということは、何というしあわせだろう。ながいいのちの川に身をうかべて、はるかに祖母と父母の愛情の記憶を胸にいだき、さらに孫の細い髪を撫でてわが膝に抱きしめる。これにまさる幸福といふものがあるだろうか。人生の幸福やよろこびは、ほうらい山中にあるのではない。稚児門にたわむると歌つた陶淵明の心境にこそ真実の悦楽を見出すべきものだ。

泉は秀才だ。「おじいちゃんの遺伝ですな」と人がいうと、父の彩児はこきげんが悪い。「隔世遺伝」というやつかな」と私が冷かすと、むつとして唇をとんがらかす。それがおもしろくて、よけい冷かしたくなる。泉いわく、「おじいちゃん、おこずかいちょうどいい」

「数学なんて、あんな楽なものあらへん。みんなで数学でけへんのやろな。作文で百点とれるのはむつかしいけど、数学は百点とれるようにできてるんや。ゼロか百や。八十点や九十点なんておかしい。」

事実彼は、数学に関するかぎり、いつも百点をとってくる。これであたりまえや、と十六才の小坊主はうそぶいてござる。エライ孫が生れて来よつたもんやなあ、とおじいちゃんは毎度ためいきをつくのである。

「おい泉！」

と祖父はしばしば孫にいう。

「おじいちゃんは東大の経済学部を出た。しかし世のなかの学問で、いちばん下等でバカげたものが経済学というもんや。おまえは数理哲学をやれ。数理哲学こそ学問中の学問や。」

すると少年は眼を輝かせて

「ウン、ぼくやる。数理哲学なんて想像するだけでも胸がわくわくする……」

「えらい！」

おじいちゃんは、ほれぼれとして孫の顔を見つめる。

「おまえのおとうちゃんのやつてる医学なんてあんなもの学問じゃないよ。あんなものは一種の記録学で、学問の部類にはいらん。おまえは一生を学問らしい学問にささげえ」

おじいちゃんは、そういうながら、陶然と一ぱいの盃をかたむける。孫こそ最上のサケのサカナだ。すると少年はちょっと顔をあからめて、こんなことをいった。

「おじいちゃん、おこずかいちょうどいい」

さあ、おいでなすつたと、

「何に使うんだ」

「本代です。ノーベル賞を獲得するには、何より本代が必要です」

負けた。

(隨筆家)



素晴らしいカット

十字屋洋服店

元町通 5 丁目

④ 0219

④ 2938



オリエンタル ホテル 新館
9月1日開館



オリエンタルホテル
神戸市生田区海岸通6
電話(3)7771~9

深水惣吉 山陽電氣鐵道KK社長

山陽電鉄の深水惣吉社長は、もの静かな、スタイルの紳士。しかし、私は電鉄事業は絶対に公益性が優先」と言い切る人だし、信念は絶対にまげないと言う人でもある。

播州工業地帯と阪神工業地帯の 中心都市「神戸」

□神戸つ子放談□

写真は深水山陽電鉄社長



「神戸っ子」に親しまれる山陽電鉄

徹底したサービスにつながっている訳で、いい足を提供することに努力しているのです。

私はこのいい足を提供する条件として三つのことを強

調して実践しているんですよ。

一、絶対に安全を確保して事故防止を計ること。

二、定期性を厳守して、ダイヤを守ること。

このなかでも、事故防止には万全を期していますよ。

事故防止の最良の策は結局無理をしないことだと思ってます。人的にも物的にも無理をしてはいけません。私たちは、現場の末端に至るまで、四六時中、指令

を出して、従業員の心をひきしめ、事故防止につとめて

いるんです。且つて、『鉄道事業の斜陽化』と言うことが

話題になった事もありますが、日本の場合この考え方

は、当はまらないと思いますね。少なくとも大都市に乗り入れているような近郊鉄道はますます需要が大きくな

ると確信しています。比較的大量の輸送ができるますし、

安全度も高いし、運賃も低いと言う利点は絶対的なもの

だと見えます。

電鉄と言うのは強い公益性をもっています。一般的の物価に比較して、運賃が比較的低い上に、定期乗客は七割以上と、輸送力は強化されるし、電鉄の諸設備も近代化されます。全部アルミで設計された新鋭車輌が6輌はありますし、新らしい車庫が、東二見に建設され現在の明石車庫の3倍の収容力をもつ車庫も完成するのです。この外にも車輌増結を考慮して、ホームの延長もどしどし進められている訳です。もちろん、第5次計画が完成しますと引き続き、年次計画を立て、更に整備を進めて行きますよ。

いい足を提供したい

「私の電鉄経営の理念と言えば、皆さんに、いい足を提供することだと考えています。山陽電鉄は電車のほかに、バス、タクシーも同時に経営していますが、総ては

来るし、電鉄事業はそう言つた社会的使命をもつてゐる
と思つています」

神戸らしい清潔なレジャー・センターを

「それに、『神戸っ子』には、お馴染の、鉢伏山、旗振山の観光設備には、神戸らしい清潔な、家族ぐるみで楽しめるレジャー・センターを目指して、建設を進めていますが、特に昨年8月に竣工した、ウォーターランドは、非常に人気があつて七色の噴水が色いろな形に変化するという楽しいもので大体一場が40秒で25場面に変わります。あの須磨浦公園展望台は最初計画されたとき、反対もあつたんですが、私の見たところ、あの景観は展望台から須磨の海岸線を望むとき、旗振山から淡路島を臨むのとは全く趣きが変り、非常に変化もあるしその上、よくまとまつていて、絶対自信があつて進めたもので、あの山頂までのロープウェイは、現在、年間90万人の観光客を集め、当初の予想を遥かに上廻る好成績をあげているので、更に諸設備を充実させて行き度いと考えています。もちろん、今後とも、清潔なレジャーの場として進める方針は変りなくなりますよ。例えば山上で、広告などは禁止しているんです。それに山頂まで水道も引いていますよ。ちょっとと申上げたいのは、この景色を案外、地元の神戸っ子の方がご存知ないことです。
五月のつづじも美しいし、夜も涼しくていいところでですから、ぜひご利用いただきたいのです」

やきを増すことがあります。」

播州工業地帯と阪神工業地帯の中心地

「現在、神戸高速鉄道の工事は着々と進められて、当初の計画どおり、大開通の工事も完了しましたし、三宮附近の工事も進められていますので、42年度には開通の運びになるものと思いますが、これは、都市計画に沿って工事を計画しなければなりませんのでね……。この神戸高速鉄道が完成しますと、山陽電鉄としましては、普通電車を、阪神の御影駅まで、阪急は六甲駅まで乗入れますし急行車は、姫路、神戸、大阪、京都間直通になり、これらの四大都市を完全に結ぶことになります。

私はこれから神戸には素晴らしい将来があると思っています。と言いますのは、播州工業地帯と、阪神工業地帯の中心都市になりますし瀬戸内の中心点にもなるのですから、位置としては絶対優位な地点になると思うんです。

元来、神戸は他都市と違つた非常に魅力のある町なんですが、その特色をうんと生かして、よりチャーミングな、独特の町づくりを進めることができ、神戸の繁榮と結びつくと思いますよ。神戸市で積極的な工場誘致を計画されるのも結構ですが、神戸をもつと魅力のある町にして、他都市から、神戸にどうしても足を向けるような、綺麗な町にしたいですね。例えば、同じ買物をするとしても、大阪にも、姫路にもない、リファインされたものが売られているとか、高級なシャレたものがおかれていると言つた魅力づくりに徹したら、もともと恵まれた都市である神戸はもつと美しくて魅力のある町になると思ひますよ。幸い神戸は、海と山に恵まれ、他の都市に比べて空気もきれいだし、水もいいし、食べるものはバラエティに富んでいて美味しいし、総てに恵まれた都市だから、どんな小さなことでも、町の魅力をつくりだすよううにさえして行けば、この自然の宝石がもつと美しい輝

(文責・小泉康夫)

経済ポケット

ジャーナル

売り上げにひびく

明空異夢

雪は情緒があつていゝ、商売がからむとふと、にひびくことになる。ス
一場では食糧を買入れた、これがさばき切れないので、空を

「雪害」！

雀部長　老いてますます意氣盛ん
というと叱られるかもしけ
ないが、阪東調帶ゴムの雀
部昌之介氏は毎日午前十時
すぎから午後六時ごろまで
精力的に働いている。多忙

張り切る阪東調帶ゴム KK

雀部会長

よ」といわれるに終り、一生懸命にメモをとるほどの研究熱心。

この雀部会長が同社の社内誌「ぐつどういる」の一月号から自伝をのせてい

A black and white cartoon drawing of a man with a prominent mustache and a receding hairline. He is seated in a simple wooden chair, looking down at a newspaper he is holding. A pipe is in his mouth, from which a small plume of smoke rises. The style is reminiscent of early 20th-century political cartoons.

海底漫步の夢実現へ

神戸青年会議所（理事長
石野成明氏）は三十数名の

メンバードで発足してから六周年を迎える、いまや会員は

約二百人近くになり一月二十二日午後六時からオリエンタルホテル大ホールで盛大に総会と懇親会を開いた。

石野理事長は豊かな明るい社会へ邁進上げよう。

社会を築き上けるといふ高い理想を具体化することに

「若手のボンボンの
集団である」という批判は
なくなる。同志的な結合の

同志の本紹介の力を経済、政治問題、社会活動で發揮、指導的な立場

意欲を示した。

また一九六四年度の事業計画として①溝崎四団体

(神戸商工会議所、同經濟
同友会、兵庫県經營者協

会、神戸青年会議所)のひどつとして積極的に働きかける(2)企画室を設けて各種の問題を検討する(3)社会改良計画の推進(4)シンガポール、シャトル、マルセイユなど姉妹JCとの積極的な交流(5)ローカルJCとの交流強化などを決め、意欲的な活動を繰り広げることになった。

海底漫步の夢実現へ

海底散歩は夢であったところ、新三菱重工業・神戸造船所がこれに挑戦。水中ケーブル船と潜水遊覧船の研究を完成し、いつでも建造に着手できる態勢となつた。

水中ケーブル船とは最近できようとしている海洋国立公園に設置しようとするもので海岸から水中にケーブルを張り、水防構造の船体を車輪で動かし、深さ二五メートルの海底を漫步する仕組み、いつでも浮き上がる所以ので安全性は高い。

海底なので水面の潜水航行する船に邪魔されず、安全に定期運航できるので、その方面からも期待されてい

る。水中ケーブル船の要目は、全長24メートル、幅45メートル、排水量150トンである。なお、潜水遊覧船は水中にレールを敷いて潜水船を走らせるものであるが、いよいよ神秘的な海底のベールもぬぐわれそうだ。

美しさを創る…

エスター・ニュートン

トア・ロード⑧1818



S
P
R
I
N
G
TIES

ネクタイの

元町バザー

神戸×元町 TEL ⑧1401

春を呼ぶマキシングの帽子



婦人帽子

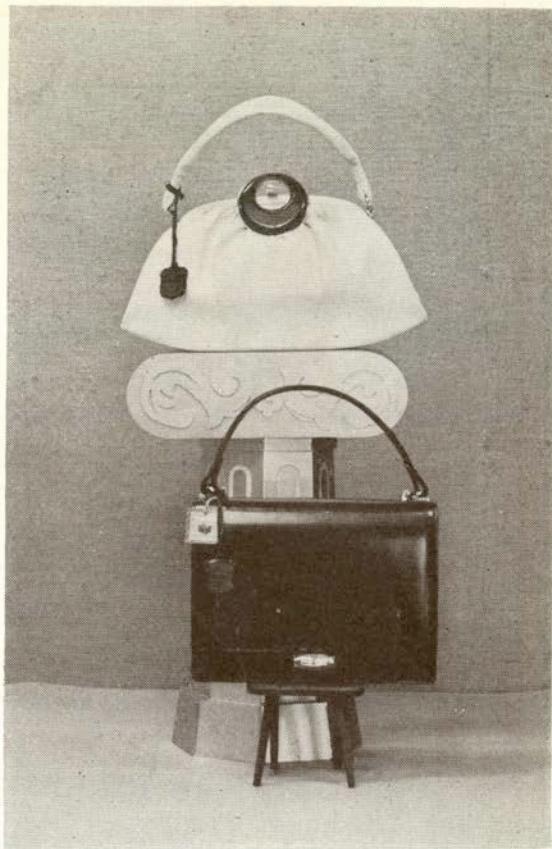
マキシング

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL ③6711-3 TEL (535) 5041

特選
ハンドバック
専門の店

シラサ

元町2 ③0813

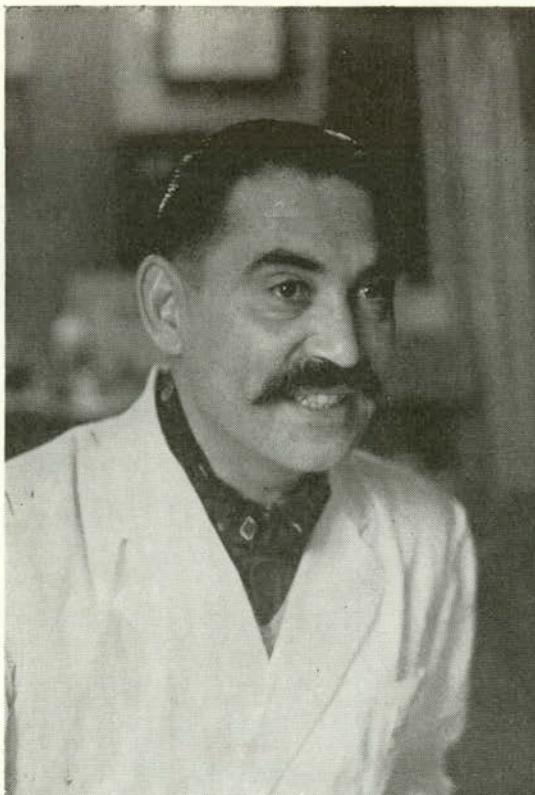


■ 神戸とエトランゼ ■

洋菓子・パン界の名門

ハリー・フロインドリープ氏を訪ねて

陳 舜 臣



「ゴールドメダル」の証書のかかったオフィスでフロインドリープ氏

フロインドリープの名で親しまれている店は、中山手一丁目の市電の市電停留所から、すこし北へあがったところにある。

ここにみに、その店のまえに立つてながてみよう。こ

こは洋菓子屋さんだが、誰しも、すこしおかしいと思うにちがいない。

第一、ショウ・ウインドードがない。それどころか、窓がスキマのない扉で、ピッタリしめられている。

第二、横文字のガラス看板のなんとそっけなく、なんと小さいことか。

正式の名は、ジャーマン・ホーム・ベーカリ。代表取締役ハリー・フロインドリープ氏の自宅は、北野町一丁

目で、じつは筆者の住居のすぐ近くである。ちらと見かけたことはあるが、ゆっくりお会いするのは、はじめてで、初対面といつてよい。

「日本でのほうがながくなりましたよ。ドイツに二十九年、日本は二十三年です」

正直なところ、筆者は小首をかしげた。そうすると、氏は四十三才なのか？ 失礼だが、もっとお年かと思つていたのである。やがて、筆者の誤解だとわかつた。誤解の原因是、氏の堂々たるヒゲもその一つである。『カイゼルひげ』というのがドイツ原産かどうか知らないが、名称からうける感じでは、そんな気がする。氏はお国ぶ

りのひげを生やしておられるのだろう。

もう一つ、家の近所で筆者はよく氏の何人かのお嬢さんをお見かけしたが、ずいぶん大きなお嬢さんがいらっしゃる。だから、氏をかなりの年配だと思いこんだのである。申訳ない。

戸籍しらべのようだが、ここにフロインドリープ氏の経歴をざつと紹介しておこう。

氏の父上は、第一次世界大戦のとき、中国の青島にて、捕虜として、対独宣戰布告をした日本に連れてこられた。あとから思えば、そのとき青島から渡来したドイツ人いうのは、日本で大きな足跡をのこしている。日本の洋菓子は彼らによって開拓指導されたといつてよい。変り種としては、聖徳太子十七条の憲法などの日本研究で有名なヘルマン・ボーネル教授のような人もいたが。

東京のドイツ大使館に、海軍武官處というのがあった。戦雲は世界を覆い、氏の祖国ドイツは各地に戦っていた。再渡日のつきの年、ドイツ軍は東へ撃つて出た。氏がつい一年前、日本へ来る時通ったボーランドやソ連が戦場となつた。二十才だった氏が、神戸で質もわるく、量も不足がちな材料で、のうのうと洋菓子など造つておれないと思ったのは、けだし当然であろう。

氏はそこへ登録した。当時は、同盟國だった日本に、ドイツの軍艦がよく來たものだ。氏はこちらですでに海軍の籍にはいり、日本に寄航した軍艦に乗つて、勇躍、祖国へ帰つた。その後、氏はK-boatという軍艦に乗つたそれは、軍艦というもおこがましいものが、搭乗人員はたつた一人なのだ。日本でいう特殊潜航艇であろう。一人で運転し、一人で雷撃する。小さなK-boatは母艦に吊り下げられて、河におとされたり、海におとされたり、西に東に転戦する。

戦いは終つた。敗戦の母国で廃墟にしばし佇んだ若きフロインドリープ氏の父上は、名古屋で東洋一のパン工場である『敷島製パン』の顧問技師として、欧風パンの製造を指導した。氏はその時代に生まれた。育つたのは神戸で、『神戸っ子』を自認しておられるが、生まれは中京名古屋である。

いまの店は、父上が一九二四年に、名古屋を離れて来神し、創立されたのである。大正十三年だから、ことしで満四十年、当時の場所も、現在地とほとんどかわらない。

そして、一九五一年、三度目の日本へ。今から十三年まのこと、最初は父上の店を手伝つつもりだった。だだ得する。

氏は十二才で、ドイツに帰国した。そして一九四〇年（昭和十五年）、二十才、シベリア経由で再び日本に来るまで、ドイツの学校で洋菓子とパンの製造を学び、『職人』の免許をえた。ドイツでは、菓子職人も國家試験で、その方面的特殊学校を出ても、見習を三、四年しないと職人免許が出ない。氏は出国のため、特別に許可をもらつたそうだ。再来日は、父上の仕事を手伝うためだつたが、昭和十五年といえば、そろそろ洋菓子どころではなくなってきた時勢である。

戦雲は世界を覆い、氏の祖国ドイツは各地に戦つていった。再渡日のつきの年、ドイツ軍は東へ撃つて出た。氏がつい一年前、日本へ来る時通つたボーランドやソ連が戦場となつた。二十才だった氏が、神戸で質もわるく、量も不足がちな材料で、のうのうと洋菓子など造つておれないと思ったのは、けだし当然であろう。

が系統的に最新技術を習った氏は、旧いしきたりを墨守する父上とことごとく意見が対立した。やむをえない。氏は神戸を離れて、名古屋の敷島製パンで技術指導をすることになった。奇しくも、父上が青島から来日したときについておなじ職に、二代目の氏も就いたのである。ぜんそくの宿痾をもつ父上の健康が衰えたので、氏は急遽神戸に戻って、店をとりしきった。八年まえであるその翌年、旧い職人気質の典型であった父上はこの世を去った。

その後のフロインドリープについては、ご存知の通りである。評論家の吉田健一氏が日本一と折紙をつけ、文芸春秋に東京からの註文法まで書いて紹介したのはかなり前だった。

氏と話していると、話題は主に洋菓子とパンのことである。言葉のはしばしに、それにうちこむ氏の熱意がのぞく。おそらく四六時中そのことばかりを考えているのであろう。

洋菓子やパンについては門外漢である筆者は、手づくりの仕込みや日本唯一の煉瓦ガマによる製造などと説明されても、ピンとこない。ただそれが、アメリカ流の大量生産ではなく、ひどく手のかかるものだということが、おぼろげながらわかる程度である。しかし吉田健一氏のほか、地元、食通である富田碎花、竹中郁の諸先生方が、このパンしか食べないことから、信用できそうな気がした。

筆者の興味は、食べ物よりも人間にある。氏の人間に接するに及んで、その人柄がフロインドリーヴ・ファンの諸先生方の言葉より以上に、無条件の信用を私におこさせた。

さて、ここで、フロインドリープの店の謎が、提起される。

ショウ・ウインドーがないのは、洋菓子やパンは、見本を見て買うものでなく、食べておいしいと思えば、また買いに行くものだからである。窓を扉で密閉するのは



中山手一丁目にあるフロインドリープの店

食品製造販売業は、衛生を重んじるためだ。都会における街路の塵埃は、相当ひどいものである。住人たちはあまり気づかないが、食品を扱う者は、細心に注意しなければならない。客がはいりやすいように、オープンにするのが最近の店舗設計法らしいが、それは非衛生であるから、フロイントドリーブの店は、ピタリと扉をとざしている。

一見、とつつきにくく、「なんだ、えらそうに構えて」と反感をもつへそまがりもいるだろうが、そんな人にべつに買ってもらわなくてもいいのだ。原則としてこの店は卸しは限られた昔なじみだけで、商先の拡張にはあまり意を用いていない。拡張すれば、どうしてもマス・プロ的製品になり、従来のもち味がなくなることをおそれているのだ。

看板がそっけなく、そして小さい理由も、それで察しがつくだろう。それは門札であって、宣伝用の看板ではない。だいたいこの店は、かって広告をしたことがない。毎年二回、イースターとクリスマスのころ、英字新聞に広告を出すが、それも厳密な意味の広告ではない。こんな小さな製品ができましたから、どうぞご覧になつてください」という「案内」にすぎない。ご覧くださいであつて、お買い上げくださいとは、けつして書かない。

フロイントドリーブ氏の念願は、日本の洋菓子やパンをヨーロッパのレベルにもつて行くことである。そのため氏は全日本パン技術研究所をはじめ、各地の同業者団体に、講師として講義、指導にまわっている。全国各地に、講師として講義、指導にまわっている。全国各地に、お弟子さんがいるわけだ。

「まだヨーロッパなどとまではいえないが、かなりよくなつてきました」

これが、日本の業界を評した氏の言葉である。講師として出張するほか、氏の店には、三年契約で、各地の洋菓子屋さんから技術習得にきている。武者修行者なのだ。

「目と耳と口で、なんぼでも盗め」

氏は絶対の自信をもつて、そう言う。技術はつづみかく

さす公開する。ただし、ぜつたい同じ品がよそで造れるわけではないと信じている。なぜなら、煉瓦ガマがほかにないのだし、またソロバンが合わない製造がすくなくないからだ。売値四十円の洋菓子で、材料費だけで三十二円もかかっているのがある。気に入つた品であれば、ソロバンを無視しても製造する気概も、よそでは真似ることができないだろう。

店の二階に、氏のオフィスがある。せまいスペースをフルに利用した部屋だった。

「どうです。潜水艦のなかみたいでしよう」

海軍あがりの氏は、そんなふうに自慢した。壁には、ドイツ洋菓子大学の『ゴールド・メダル』の証書がかかっていた。その大学を卒業して何年かたつて、はじめて「ブルー・メダル」の資格ができ、つぎに「シルバー・メダル」を経て、やつと取得できる位が、このゴールド・メダルで、卒業後二十五年かかるそうだ。氏は卒業後十三年で、それを取得した。先年帰国したさい、母校で日本の洋菓子とそのデザインについて講演し、そうした特殊な功績が買われた結果であるらしい。

この世のなかの技（わざ）は、日に日にあじけない量産化へと進んで行く。そんな世相に抵抗する店が、何軒かあってもいいだろう。それを支えるには、やはりフロイントドリーブ氏のような、信念をもつた人間の力にまたねばならない。

「私には後継ぎがない」

お子さんがお嬢さんはかりなので、氏はそうおつしやる。そんなことを言わずに、いいお母コさんでも迎えて、ぜひフロイントドリーブの店を、末ながら続けるように、市民の一人としてお願ひしたい気もちである。神戸の町を殺風景にさせないためにも、そういう思うのが筆者一人ではないだろう。



ローレックス
の時代です



特約店



美田時計店

神戸市生田区元町三丁目
TEL 三宮 (3) 1798



きものと細貨

東京

銀座店	新橋店	西店	東店
/	/	/	/
T	T	TEL	TEL
EE	EE	L	L
L	L	(571)	(571)
小松	ストア	0772	0886
ス	ア	1	2
ト	地	0	3
ア	階	7	6
地	(代)	7	9

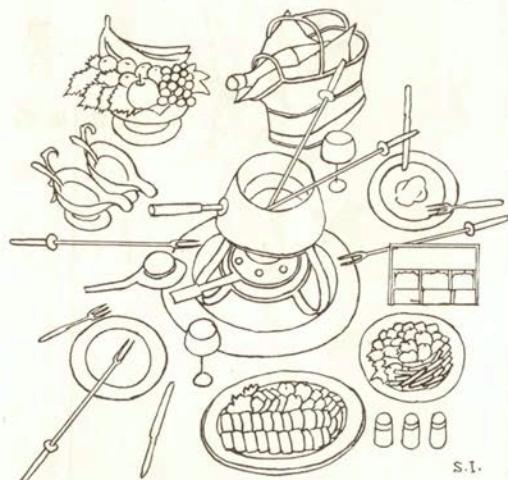
あんざら庵

FONDUE

フォンデュ

レストラン コラル キタノで
ズイズ鍋 フォンデュをどうぞ.....

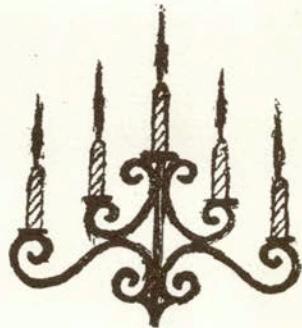
日本のすき焼と並んで卓上で
調理出来る最上のズイズ鍋の
丸味をお是非お楽しみ下さい



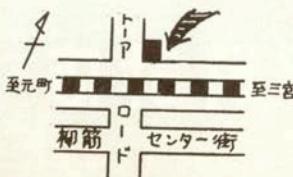
Restaurant
CORAL KITANO
コラル キタノ
TEL (23) 2251

最高を誇る神戸肉!

鉄板料理定食
650円
土、日、喫茶
キャンドルタイム



Grill & Tea Room
バター焼 喫茶 **candle**
きやんどる



クラス会・コンパ
¥650より
営業時間
AM11.00～AM1.00
神戸三宮トアロード
高架山側東角 399991